

障害児入所施設（①，②，③，⑤）

令和 2 年 2 月頃に武漢での感染者が出た時から職員に情報発信を行った。国内で感染者が確認されて、国や自治体から注意喚起が出たときは、**メールで全職員に定期的に情報を提供**した。3 月になって一斉休校が実施されたころには、**感染症対策マニュアルを covid-19 に合わせて改訂**し、本格的に対策を講じるようにした。

ダイヤモンドプリンス号での集団感染が報道された頃から、職員の恐怖心がかなり高まっていた。虐待やトラウマ体験を抱えた子どもにとっては、日々接する大人の心理状態の影響が大きい。**職員の不安に対しては、24 時間 365 日いつでも施設長に電話をして相談できる体制**にした。また、**感染についての正しい情報やストレス対処についての情報**などを日々職員に発信した。**手指消毒液やマスクの備蓄を職員に提供し、自分や家族が covid-19 疑いで休んでも給与は 100%保障**することを通知した。4 月に近隣の障害児の入所施設でクラスターが発生し一気に身近になった。妊娠中や基礎疾患のある職員、休校中の子どもの世話が必要な職員などは遠慮せず有休や時間休を取得するよう勧めた。

大人がマスクをしていると、子どもが表情を読み取りにくいいため、**身振り手振りのオーバーアクションでコミュニケーション**をとるように促した。入所児の親の卒入學式への参加や面会も距離をとったり窓越しで実施したりするなどの折り合いをつけた。障害のある子どもたちに、**マスク着用や手洗いの指導を行う際には、できたことを褒める**などの工夫をした。

毎年実施しているアンケートで約 25%の職員が「仕事にやりがいを感じられない」と回答した。Covid-19 の影響が長期化し、行事や集団での遊びの機会がなくなり、仕事に対する意欲や責任はあっても、やりがいが低下している実態は衝撃的で、職員のストレスが子どもたちに影響することを懸念した。そこで、**コロナ禍でもできる屋外遊び**などを職員に検討してもらっている。

Covid-19 の影響で管理職の負担が大幅に増えたため、**近隣の施設長と LINE グループを作ってマニュアルや情報を共有**したところ、管理者の業務負担と不安の軽減になっている。他の施設の対応を知ることは安心につながっている。また、感染症対策委員会等のデイリーミーティングも組織内の現状や課題方針を共有できた。

感染を経験して、感染症にも強くより家庭的な養育もできる小規模グループケアでの養育環境を模索したいと考えている。